

[論文]

高学年児童と中学生が書いた英単語、及び英文から見えてくる

つまずきの傾向と指導改善の提案

～英語の学びを確かなものにするために～

佐藤 玲子*
大槻 友紀**
久埜 百合***
松津 英恵****

Common Errors in Children's Written Work and Suggestions to Improve Instructions in Early Stages of English Teaching

Reiko Sato*
Yuki Otsuki**
Yuri Kuno***
Hanae Matsuzu****

キーワード:「読むこと」、「書くこと」、エラー・児童生徒の英語表記の躓き、指導法提案
literacy, errors in children's writings, suggestions for teaching techniques

要旨

本研究では、小学校教育課程に英語科が必修とされた後に中学に進学した中学生において、小学校英語で既習の英語の誤記が多くみられることから、小学校高学年の「話すこと〈やり取り〉」「話すこと〈発表〉」の指導に合わせて、子どもが「読むこと」と「書くこと」に向かおうとする能力を、授業でどのように伸ばしてきたのかについて、われわれは関心を持った。そして、実際に中学生の誤記を調査し、そのような誤記は小学生の段階で防ぐことはできなかったのか、小学校4年間の指導を改善することで中学校英語教育の初期の指導が円滑に行われるのではないかという点に焦点を当て、研究を開始した。まず、中学生の誤記の調査をした。さらに、小学生が「話すこと」の指導を通して英語で発信する力をつけており、文字にも強い関心を持ち、「読むこと」の力をつけて、高学年児童では発表する準備のために英文を書く指導も本研究の調査対象校では行われるようになったので、子どもたちの書いた資料を調査した。そこで見られた誤記を調査し、中学進学前に起こっている誤記の原因を探り、誤記を起さない指導方法について考察し、まとめた。

1. はじめに

外国語教育において、コミュニケーションを図る資質・能力の育成のためには、小中学校英語教育のスムーズな連携が必要不可欠なことである。小学校で習得されるべき五領域の到達点は明示されているが、中学校英語と接続する時点までに指導される内容と子どもの到達点について、複数の学会で報告される授業研究などから、今後の検討が必要だと考えている。小学校では音声を聴きながら語や文を見て、意味を推測し読もうとする力を身につけ、更に「書くこと」の指導に入る。しかし、まだ自力で語や文を読むことや書くことは十分にはできない。現行の小

* 明星大学

** 明星大学

*** 中部学院大学

**** 東京学芸大学附属竹早中学校

学校学習指導要領外国語(文部科学省, 2017)では、「読むこと」、「書くこと」の目標の説明に「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする」、「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書き写すことができるようにする」等と記載されており、文字指導の前に音声指導を行うことを重視しているが、音声指導から文字指導への過程で児童はどのようなことに躓き、中学校での英語学習にどのような困難があるのかを検討する必要があると感じた。本研究では、小学校・中学校での児童生徒の躓きを主に彼らが書いた語や文から収集してその要因を考察し、中学校でよいスタートがきれるように小学校での指導法の改善を提案したい。

2. 先行研究

久埜(2022a)では、子どもがI like spaghetti. をI like scabetti. と発話したり、Thank you, three, Thursdayなどの/th/を強く下唇を門歯とすり合わせて/f/のような音で発音し、中1の英語指導が始まった直後に3をthreeと書く等の事例を挙げたりして、英語を第一言語とする子どもの初期の発話と同様の誤用が、日本で初めて英語に触れる子どもたちにも起こるとしている。また、I have a (pencil). という文を繰り返し聞くことで、have aを子どもの中には塊の音と思いI have two pencils. のような冠詞の誤用をしていることも、久埜(2022b)は報告している。

また、中学校の書くことにおけるエラーの研究では、物井他(2023)が、中学1年生105名を対象に調査し、エラーの特徴について、綴りに関するエラーの特徴と文法に関するエラーの特徴の分類作業を試みた。そして、新しい文をInputする時点で、文例の選択に留意し、その英文を聞かせながら英語のルールに気づかせる指導が重要であることと共に、教師の音声指導に関する注意深い指導も大切であり、児童に正確な音を作ることを意識化させることでそれらのエラーを修正できるのではないかと報告している。あわせて子どもの正答・誤答を単に○×で評価するのではなく、その原因を探り、エラーを未然に防ぐように対処する必要があるとも述べている。

言語習得の過程で起こるさまざまなパターンのエラーを、母語習得の過程でも起こっている現象としてとらえている事例も、伊藤克敏(1990, 2005)、広瀬(2017, 2022)で詳しく述べられており、言語習得の発達段階についての留意点を指摘している。言語獲得の過程で起こる子どものさまざまな発話は、言語発達の中で起こる「創造的な逸脱」(伊藤, 1990)とされるが、小学3年生以降の英語指導で起こるエラーについては、指導によって回避できるものがあると考えられる。後者に対しては、その手だてを考え、指導改善が必要であると考えられる。しかしながら、子どものエラーを修正させるよりは、発話中にエラーが起こってもよいとして、英語で発表する積極性を評価する傾向があり、エラーを予防しようとする提言は小学校現場からあまり聞こえてこない。

3. 研究方法

3.1 研究目的

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が読む・書く指導(文部科学省, 2017)に進むのであるが、児童生徒が書き残したものを分析するためには、先ず読むこと(文字認識)がどのくらいできているかを知る必要がある。本研究では、先ず、通常授業において、音声で十分に慣れ親しんだ語や文が、どの程度読むときや書くときの文字の認識につながっているかを捉える調査を実施した。同時に通年の授業を通して、教科書に設けられた「書くこと」の欄に子どもが書きこんだエラーや中学校入学直後の生徒のエラーを分析し、綴りの修正だけでは解決しない、外国語である英語を習得させる過程において、つまずきの原因を探ることを目的とした。さらに、小学校高学年児童のエラー分析ばかりでなく、中学生のエラーからもつまずきを鑑み、それを起こさないための指導について取り組み、指導改善の提案を目的とする。

従って、具体的には、以下2つの研究課題を設定した。

- (1) 高学年児童は初歩的な文字・単語をどの程度読むことができるのか。
- (2) 高学年児童と中学生では、単語や文を書く場合にどのようなエラーの傾向がみられるか。

3.2 方法

小学校2校と中学校3校において、以下4つの調査を実施した。

- I : 「書けるかなクイズ」を2023年5月連休前に実施
- II : 場面・状況が設定された英作文問題(中学1年3学期期末考査)に見られたエラー調査
- III : 「文字クイズIV a」(新井他, 2023)を2023年1月に実施
- IV : 小学校の通常授業の中で見られた英文に見られたエラー調査
 - ①教科書、ワークシートと市販まとめテストや発表原稿に見られたエラー
 - ②授業観察

3.3 参加者

本研究では、小学校2校の外国語活動、外国語を経験してきた5年生と6年生、中学校3校の小学校で外国語活動・外国語を学習してきた1年生と2年生を対象とした。

- I : A、B中学校1年生237名とC中学校2年生140名
- II : C中学校1年生140名
- III : E小学校5年生29名、および、E小学校6年生24名
- IV : D、E小学校5年生合計116名、および、E小学校6年生24名

3.4 倫理的配慮

調査実施に先立ち、研究参加者は事前にそれぞれの学校において管理職に届け出を提出した上で承認を受けている。研究の主旨および、学校名や個人名等の個人情報は匿名化され適切に管理されるようにして最大限の配慮を行うことを説明した。そして、参加者からは、結果を論文等で発表することについて事前に口頭で承諾を得た。また、本研究は、指導者が指導の過程で児童生徒の特徴的な誤りを集めており、特定の児童生徒を調査対象とはしていないが、本研究の参加により①児童生徒の正課授業に支障をきたさないこと②正課の成績に影響を与えることがないことを口頭にて説明し同意を得た。

4. 取り組みⅠ～Ⅳ

4.1 取り組みⅠ 「書けるかなクイズ」の調査

4.1.1 目的

中学1年生はどの程度語のつづりを正しく書くことができるかを捉えることを目的とした。(1)においては、中学1年生2校の5月時点での調査、(2)においては中学2年生の4月時点での調査を実施した。

4.1.2 方法

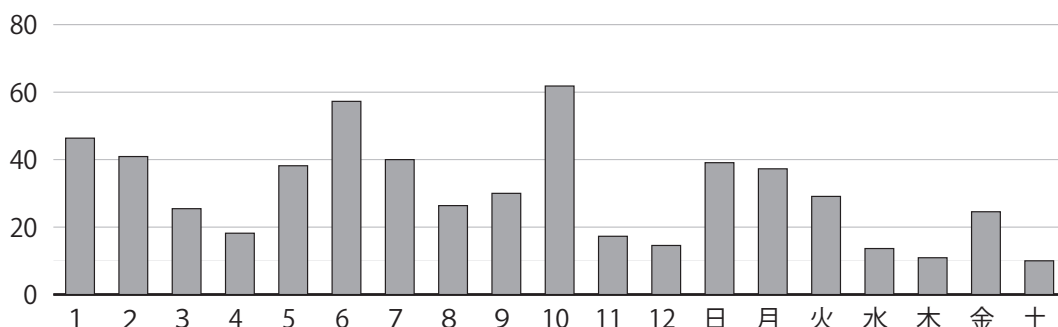
(1) 公立A中学校1年生110名とB中学校の1年生163名を対象に「書けるかなクイズ」を2023年5月に実施した。対象語は数字の1から12と日曜日から土曜日までである。これらは小学校のどの教科書でも複数回表示されている語であるため、繰り返しインプットされてきたものであるが、小学校での学習を終えた段階で、どの程度生徒の知識につながっているかを測るため、空欄に語を書くクイズ形式の問題を作成した。同時に、以下の3項目を3段階の自己評価でチェックする欄を設けた。自己評価項目は、該当の語を英語で「言えるか」、もし、文字だけ書いてあったら「読めるか」、最後に、何も見ずに「書けるか」というものに対して、「できそう=○(3点)」「助けがあればできそう=△(2点)」「難しい=×(1点)」を選択する方法だ(APPENDIX 1)。分析方法は、「書けるか」の自己評価と解答欄のつづりをクロス集計した。併せて自己評価の3項目も集計した。

さらに、(2)では、C中学校2年生140名を対象として、(1)と同様の語を書くという小テストを実施した。4月に実施し、1年間の中学校での学びを通して頻繁に出合う語彙が習得されているかを確認することを目的とし、正答率を集計し、(1)の1年生の結果と比較した。

4.1.3 結果

(1)「書けるかなクイズ」におけるA中学校1年生110名分の正答率を示す(図1)。最も高かったtenの正答率は61.26%で、最も低かったThursdayは10.90%であった。数字の「11、12」や曜日の「水曜、木曜、土曜」が圧倒的に低いことは想定内の教師も多いかもしれない。しかし、fourの正答率が18.01%と低い結果となったことは、教師にとって意外な結果といえるかもしれない。全体の正答率を図1に示す。

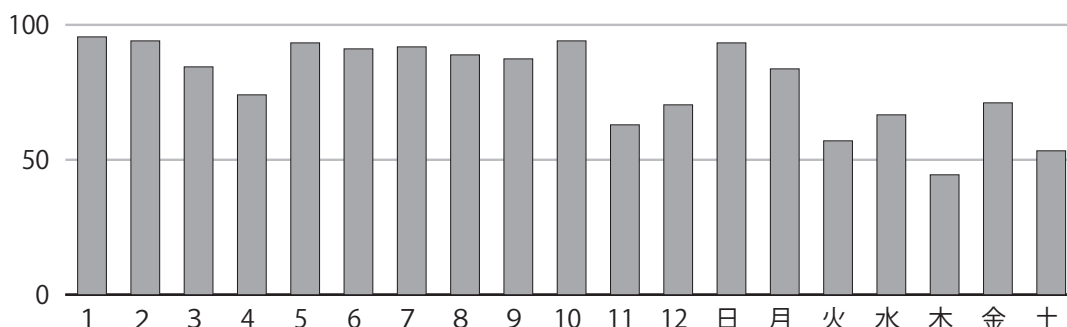
図1 「書けるかな」クイズ正答率A中学校1年生5月



また、fourについては、生徒の自己評価がM=1.76と、全体平均と同等の数値を示していたことから、多くの生徒はfourを正しく書けていると認識していることがわかった。B中学校の163名についても同様の傾向が見られた。fourを「書ける」と自己評価した解答の内、エラーが32種類出現した。例はfor、fow、fou、Foro、foo、frau、fworであった。B中学校からはfore、foarというエラーが出現し、合計34種類を超えるエラーが見られた。尚、fで書くことをやめていると思われる解答は集計から除外した。一方、最も正答率の高かったtenに関しても、エラーとして、ton、tan、taenが出現した上に、未回答が35名いた。最後にThursdayに次いで自己評価が低かったSaturdayについては、30種類のエラーが出現した。Sataday、Samday、Satrday、Satuday、Stabey、Satdayなどである。

(2) 中学2年生の4月に同様の「書けるかな」クイズを実施した正答率では、135の有効回答の内、最も高い、oneの95.55%がある一方で、Thursdayは44.44%にとどまった。全体的に圧倒的に習得が進んでいることがわかる一方で、どの語も100%の正答率が検出されなかった(図2参照)。

図2 「書けるかな」クイズ正答率C中学校2年生4月



(1)と正答率を比較すると、母集団が異なるものの、およそ一年間の中学校での英語学習を通して、習得が進んでいるのではないかと考えられる。しかし4文字という短い語であるfourでも中学2年生の正答率が74.07%にとどまっていた。

4.1.4 考察

「書くこと」も教科書の指導を通して、段階的に語の理解が進んでいることがわかった。一方で、fourのように、学習者への負荷が少ないと思われる文字数の少ない語の方が、Saturdayのような長い語よりも多くの種類のエラーがあったことから、学習者は、インプットを受ける段階でインプットの意図を誤って理解しているのではないかと

という更なる問いが生まれた。生徒にとって「書ける」と自己評価している場合でも、エラーを定着させる操作が始まっている可能性がある。学習者が自らエラーに気づくような指導を通して、つまずきを回避させる必要があると言えるのではないか。

4.2 取り組みⅡ 中学1年生の英文でのエラー

4.2.1 目的

中学1年生が英文を書く際、どのようなエラーが頻繁に起こるのかを捉え、それらの原因や背景となっていることを探り、授業での指導提案につなげることを目的とした。

4.2.2 方法

普段の授業実践や生徒の学習活動の中で生じるエラーを把握するため、通常の形で実施した定期考査から得られたものを今回の分析材料とした。C中学校1年生140名を対象とし、1年時3学期期末考査(2023年2月実施)段階の英作文に見られるエラーを集計した。中学入学後、音声から少しずつ書くことに慣れ、書き取りのテストなどはこの段階では行っていないが、言語材料を使った口頭練習の後で、発話したセンテンスを文字で書いてみる活動を行ってきた。

4.2.3 中学1年生の場面・状況が設定された英作文に見られたエラー

出題について

1) 求められている正答の文例“Kaito is decorating the room.”

(教科書掲載のイラストを見て、現在進行形で説明する。)

2) “What are you doing?”

(イラストの登場人物が別の人物に「今何をしているところか」をたずねる設定)

生徒の答案から見られたエラーを分類すると以下ようになった。

(a) 日本語、カタカナ英語(「デコレーション」「デコる」など)の影響と思われるもの

- He is decoretioning room.
- Kaito is dicration the room.
- Kaito is decreshion in room.

(b) 日本語のカタカナの音の影響と思われるもの

- // /r/ を混同していると思われるもの
Kaito is decoleiting the room.
Kaito is decolating the room now.
- /b/ /v/ を混同していると思われるもの
Josh is taking a bideo.

(c) 冠詞や前置詞の抜け落ちの事例

“go to …” の “to” が抜ける例が多々散見された。

- I want to go Niigata.
- I want to go Okinawa
- I’m wraiting (a) birthday card.
- Josh is taking (a) video.

*弱形の音の脱落(書くと抜け落ちる)

(d) 鏡文字の間違い “b” と “d”

- Kaito is becoreting the room.
- What are you boing?

4.2.4 考察

(a)については、十分な音声でのやり取りや文字の視覚情報から日本語と英語の語用の違いに気づかせることが大切であろう。(b)については、日頃発音練習をするときに、/l/ /r/、/b/ /v/の音の混同に関するエラーが多く見られたことから、指導者は意識して聞かせ、子どもたちにこれらの音素を発音する口の形の作り方を指導することが大切である。(c)冠詞や前置詞、～ingなどの弱形の脱落は、明示的に文法を説明することも対応策として有効であるが、ディクトグロスなどの活動を通して、子どもたち同士で、やり取りをしながら、誤用気づき、その文を修正して正しい語法に気づいていく指導法も取り入れていきたい。子どもが自覚しながら正しい語法を身につけていくことができると考えている。(4)の鏡文字については、生徒の中にはdをbとどうしても書いてしまう特性を持っている子どももいるので、その場合は特別な配慮・支援や指導の工夫が必要(林田・佐藤, 2023)となる。

4.3 取り組みIII 「文字クイズIVa」の調査

4.3.1 目的

小学校高学年はどの程度「読むこと」ができるかを捉えることを目的とする。

4.3.2 方法

公立小学校5年生29名と6年生24名に「読めるかな」クイズとして「文字クイズIVa」(新井他, 2023)を2023年1月に実施した。用いた文字クイズは、合計13問から成り、それぞれの解答の横に5段階で「読める」かどうかを自己評価する欄を設けている。問題の種類は、単語選択問題7問、条件選択問題4問、大文字・生活単語2問である。正答率を集計し、学年間の習得状況の比較と傾向をまとめた(問題の一部APPENDIX 2に掲載)。

4.3.3 結果

「読めるかな」クイズの5年生の結果から、正答率が50.0%以下の項目が3つあった。どれも絵が示されていない文字の選択や文の3択の問題であった。全て大文字で表記されていた国名は、最も正答率が高かった(図3参照)。

図3 「読めるかな」クイズ正答率5年生

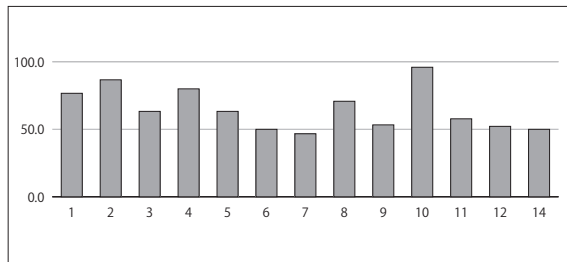
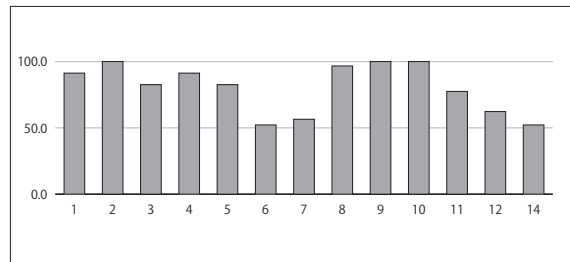


図4 「読めるかな」クイズ正答率6年生



どちらの学年においても、正答率の低い項目の傾向は類似していた。6年生では3項目において、100%正答率が見られた(図4)。全ての項目で6年生の正答率の方が5年生よりも高かった(図3、図4)。

4.3.4 考察

「読むこと」は教科書の指導を通して、段階的に語の理解が進んでいることがわかった。国名の大文字を読めることから、日常生活の中で大文字に親しんでいることが推察される。イラストの無い文字だけの語や文の正答率が低かったことから、授業において意図的に文を指しながら音と文字を丁寧に結びつける必要があると言える。そのような場面において、指導者は意図的に綴りを示しながら音と結びつけ、より丁寧に確認させる必要があると言える。

4.4 取り組みⅣ 小学校高学年の通常授業での書くことに見られるエラー

4.4.1 目的

通常授業の中で英文を書く際、どのようなエラーが頻繁に起こるのかを捉えるため、小学校高学年児童のエラーを収集し分析した。

4.4.2 方法

小学校2校の外国語活動、外国語を経験してきた5年生116名、6年生24名を対象に、まとめテストにおけるエラーを収集した。エラーは、市販のまとめテストと教科書(表1)のワークシート(なぞり書き・写し書き・単語を埋めての文完成)、および、(最終)清書前に見られたものを収集した。また、授業観察(5年生、6年生各1クラス)を通年でを行い、教師の語り掛けや児童の発話、教師と児童のやり取りを観察記録した。

尚、ワークシートからのエラーについては、教師は児童のエラー(つまずき)に気づいた時点で、個別指導や全体指導をし、児童はエラーを修正している。

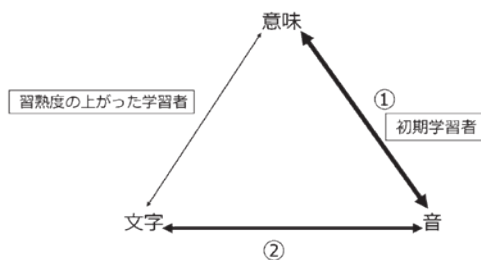
表1 まとめテスト・ワークシートの単元例

5年生	87名	Here We Go! 1 Unit 5. He can run fast. She can sing well.	6年生	24名	One World Smiles 6 Lesson 4 My Summer Vacation
	87名	Here We Go! 1 Unit 6 I want to go to Italy.		24名	One World Smiles 6 Lesson 5 You can visit ….
	29名	One World Smiles 5 Lesson 9 My Dream Friend		24名	One World Smiles 6 Lesson 7 My Best Memory
	計203名			24名	One World Smiles 6 Lesson 9 My Junior High School Life
				2X24名	One World Smiles 6 市販まとめテストU6&7
				計144名	

4.4.3 結果とエラーの原因

収集した5年生、6年生のエラーの種類を13項目に分類した(APPENDIX 3)。1文に、複数のエラーがあるものもあり、複合エラーとしている。そして、授業観察から、エラーがどのプロセスで起こり易いかを図5のように①、②、③に分けながら、エラーの原因を考察した。

図5 意味・音・文字の関係(中村, 2015を参考に作成)



- ① 意味を音声化できる・音声を聞いて意味が分かる
- ② 音声を文字化できる・文字を見て音声化できる
- ③ ①、②のプロセスで起こらなかったエラー

インプットがなければアウトプットはできず、インプットの質と量が大切であり、学習指導要領(2017)でも、「読むこと」、「書くこと」のまえに音声で十分慣れ親しむことを大切にしている。初級学習は、①のプロセスから②のプロセスを得て、「読むこと」、「書くこと」ができるようになる。十分な音のインプットがあれば、英語の形式(文法)は音で伝わっていくと考える。

13のエラー項目を、エラー例の数が多く見られた(頻度ではない)項目順に取り上げ、各エラー項目からいくつかのエラーを提示する。

エラー項目1：正書法(大文字・小文字表記、スペース等)

She is Great	She can Play Soccer.	He can jumprope.
She is my favorite Woman	thank you.	He can speak withpeople.
I want to go to The U.S..	He can speak english	He cant cook
But He can't play baseball.	She can cook.	He is cool

このエラーは、③に入る。

エラー項目2：複合エラー

I want enjoy culture festival.	Wats Sports do you like	I went grandpents house
He is volleyball plye.	He can Dasshu.	she can syuuzi
She is ski jamper.	He can do kandama.	do you like cat/No I can't
we went aquarium.	Bat se cant cook.	I like your cutu
She can cock a flench toast.	But he can't recorder.	She like sing well.

児童の書いたものに見られるエラーは、一つの文に1つのエラーがあるとは限らず、異なる原因で起こる複数のエラーが存在することもある。冠詞の脱落と意味、前置詞の脱落、語の欠落、綴り(ローマ字)、正書法、日本語思考、動詞の選択、What'sを一語とした(Wats)とした綴り間違い、文構成(品詞、三単現s、~ing)の混乱などの2つか3つのエラーが混在する。冠詞・語・動詞の脱落や文構成の混乱など、プロセス①、②の意味と語の音とその文字化の関係の理解不足が原因であったり、ローマ字表記やカタカナ表記の影響から判断を誤ったり、プロセス③の正書法を知らないことや綴り(ローマ字の影響からの綴り間違い)などが原因であるものがあつた。

*She like () sing well. 三単現のsの脱落は、この一文しか出ていない。

エラー項目3：単語の綴りの誤り・鏡文字など

He can ply dodge ball.	I want to vizit Rome.	It was fan.
She can cing well.	I want to bay macarons.	He can play tha piano.
I want to visit Easter Islanb.	Hii can fly high	He can play tablet tennis.
She can play tadle tennis.	and se can swim fast.	He is batheng

/s/はsかcの文字で書くことでの知識あることでのエラー、bとdの鏡文字、/æ/も/ʌ/、/ə/をローマ字表記のaで表すことやtableを綴りが似ているtablet、bathingをbathengと持てる知識を活用したからのエラーであろう。

6年生Lesson5 What country do you want to visit?で見られた、I want to vizit Rome.のエラーについては、担任は第1次ではデジタル教材で動画やchant等の活動を行っているので、単元のタイトルを目にしているはずである。また、第2次ではWhat country do you want to visit?の文を板書して、読み上げてもいたが、音が文字と視覚的にvisitに結びつかず、vizitとローマ字表記になってしまったと考えられる。

エラー項目4：冠詞、複数sの脱落

I want to buy T-shirt.	He is volleyball player.	I went to movie theater.
I want to eat hot dog.	I went to sea.	I saw movie theater.
I want to buy macaron.	I went to library.	My best memory is school trip.

授業観察では、教師はrecastで、プロセス①の音声のやり取りの中で児童が気づき修正できるようにしていたが、②のプロセスでエラーが見られた。書くことの活動では、a、theの脱落が起こっている。aの脱落については、複数形のsの脱落とも考えられるが、弱音に足してしっかりと音声認識が出来ておらず、また、音の文字化がうまくいっていないことから、視覚認識としての文字提示が効果的になされていないことも考えられる。

My best memory is school trip.は、6年生Lesson7小学校の思い出の単元で見られたエラーである。教科書の動画やchant、リスニング活動でその表現に慣れるようにした後、一番思い出に残っている学校行事についてたずねあう。その際にHRTは、皆で経験した学校行事には定冠詞theが付くことを明示的に説明し、発話活動をさせていた。ワークシートに書く前には、教師は例示されている文章を読み上げてもいる。ワークシートは、写し書きすればよいようになっているが、My best memory is the _____.ではなく、My best memory is _____.となっていたので、思い出に残っている行事はどれかということに意識がいき、定冠詞を加えることを忘れたと考え

られる。定冠詞の意味が十分伝わっていないこと、意味のある語の音と文字とを結びつける音読指導が十分でないことも、このようなエラーが起こる理由と考えられる。

エラー項目5：カタカナ・ローマ字表記の影響

I want to go to Austoralia.	I went Hirosima.	You are grete.
I want to see koaras.	I went to Hokkidou.	

これらのエラーでは、カタカナ語やローマ字は音と文字の結び付けや語の意味の推測に役立つが、英語の綴りのエラーを起こす原因ともなることを示している。

エラー項目6：助動詞canの後の動詞(原形)の脱落、can＋名詞

He can curry and rice.	She can't soccer.	He can tennis well.
You can casino in Las Vegas	He can dodgeball.	I can igo well.

canの後の動詞の脱落は、音声でのやり取りでは見られず、書く過程で見られた。音声のみでの文構成の理解が十分できていなかったことが伺える。

5年生のLesson5 I can ran fast.やLesson9 My Dream Friend、6年生のLesson5 What country do you want to visit?や6年生の市販のテストや子どもの発表原稿で見られたcanの後の動詞の脱落であるが、対象児童の学校のカリキュラムではcanは3年生の外国語活動で「やり取り」をしながら経験してきた表現であり、口頭では自己紹介などで使ってきている。教師と児童の普段のやり取りやスピーチでは言えていても、書く際に動詞が脱落してしまうのは、文字で確認する機会や、書く前に書きたいことを言わせたり、指導者にも聞いてもらって正しい文を確認したりしてから書く作業に移る、という指導がないからではないかと考える。なお、スピーチの前のやり取りでは、canの使用を教師が聞かせて、板書で見せたり、canの後の動詞の選択についても指導したりするので、動詞の脱落が起きていない。万が一脱落が起こっていたとしても、その場で正しい形を聞かせ気づかせている。

エラー項目7：語順、日本語思考の直訳

He can study	I enjoy a bout.	I ate fruit a parfait.
*Heys can Commuication.	*I went to hakuba.	I ate octopus a bowl.

*:他の項目に分類している。

日本語と英語の語法の違いからのエラーが書く過程で見られた。語順のエラーはここで示す2例のみであり、①の過程では見られず、児童の書き残したのものの中に見られた。

エラー項目8：文型の理解不足(enjoyed ~ingなど動詞の後のing)

I want enjoy culture festival.	I enjoyed drive.	she can doriveng
I enjoyed read books.	I like play a snare drum.	He can singing.

enjoyやlikeの後にくる動名詞のingが脱落してしまうのは②のプロセスの文字化でのエラーであるが、弱音の聞き洩らしが原因であり、can＋…ingのエラーは、ingの過剰一般化が原因であろう。児童は精一杯の思考を巡らせていることが推察される。

6年生Lesson4 My Summer Vacationでは、enjoyedの後の動名詞のingが脱落が見られた。この単元では、enjoyedの後に名詞がくる形と動名詞になる形の2つが出てくる。また、enjoyedは、ate、saw、went toと一緒に学習するので、enjoyed＋動名詞に焦点があいにくい。また、聞くことの活動→話すことの活動→書くことの活動と展開しているが、夏休みの思い出の絵日記作成のための例示はあってもその文の音声はついておらず、児童による音読活動がどの程度なされたかは定かではない。

エラー項目9：Google翻訳によるエラー

It was we had fun.	I could play music very well.	You can crab you eat.
--------------------	-------------------------------	-----------------------

自分伝えたいことを英文で書く時、教科書にその文例がない場合、従来の和英辞書を使用せず、タブレット端末でGoogle翻訳を使っていることがある。エラーの原因としては打ち込む際の児童の日本語の語彙不足・日本語表現や日本語と英語の文型の理解不足が考えられる。例えば、ワークシートにIt was ____、やYou can ____、の下線部にGoogle翻訳で出て来たwe had funやcrab you eatをそのまま書き写したり、「演奏することができた」はcouldが出てきたので書き写したりしていた。

エラー項目10：動詞の選択、語彙の理解不足

I want to see Paris.	I played a relay.	You are onigokko
----------------------	-------------------	------------------

①と②のプロセスでは見られず、書く活動で見られ、③に入る。選択肢のあるもの・ないもの2つのタイプでのエラーである。I ran a relay. を教えておらず、児童はplayを思いついて応用している。

エラー項目11：文の構成についての理解不足

He is can...	do you like cat/No I can't	you are is kind.
he can sings well.	I went to a library.	I ate an udon.

①と②のプロセスでは見られず、書く活動で見られ、③に入る。児童は文の構成に関する知識は不足しているものの、文を産出しようと考えていることが推察される。

エラー項目12：不定詞toの脱落

I want go to France.I want buy,I want enjoyのようにwantの後にtoが脱落したエラーは、授業観察中プロセス①&②で見られた。toの音声変化、弱音化が影響しているであろう。

エラー項目13：三単現s

三単現のsの脱落については、1例のみであり、文構成のエラーがあったので、複合エラーに入れた。このエラーは、①ではなく②のプロセスで見られたが、She like sing well.での三単現のsとsingingのingは、弱音であり、音声でのインプットが十分でないことや音声認識が十分にできていなかったのではないだろうか。

エラー項目2、8、12、13以外では活動の際に表出してくるエラーは音声だけでなく書くことの知識が必要であるが、指導者が聞かせていても、正しく聞き取れていない発話上のエラーであった。さらに、正しく聞き取っている、正しく音声で応答はできているのに、文字化するときに出るエラーが混在していた。

4.4.4 考察

児童のエラーを13項目に分類し、そのエラーがプロセス①、②、③のどこで起こるかを授業観察から判断し、その原因を考察した結果、児童のつまずきを防ぐ手立ては、以下のように考えられる。

- (1) 音声でのインプット、やり取りを充分に行い、「読むこと」、「書くこと」の指導を急ぎすぎない。
- (2) 文字の手助けのある発音指導について、躓きの起こり易い場合は、音声を聞かせながら文字を書いて見せる。
- (3) 正書法・動詞の選択などは、英語のルールに気づくように、例文を多く聞かせたり、板書をしたりしながら、明示的な指導でより意識化させる。

5. 取り組みⅠ－Ⅳの考察、及び今後の研究について

取り組みⅠでは中学1年生と2年生進級直後の春の時点において、数字や曜日をどの程度書けているかを調査した。生徒は「書ける」と自己評価しているにも拘わらず間違っていた語があり、100%の正答率を得た語は無かった。取り組みⅡではカタカナの影響や文型習得中の問題があると思われる文が見られた。このことから無意識のうちにエラーが定着し始めている可能性が考えられる。取り組みⅢでは、5・6年生の語や文の読みを調査した。学年が上がると正答率が上がったことから、段階的に語の理解が進んでいることがわかった。取り組みⅣでは、音声のインプットが十分無いことが原因で起こるエラーと、正書法の知識の不足や日本語の語法や外来語の影響などによるエラーがあり、文字の効果的な活用も必要だと思われる。

以上から研究課題については、以下のことが明らかになった。

- (1) 高学年児童は初歩的な文字・単語をどの程度読むことができるのか。

児童の文字を読めるという自己評価が比較的高く、文字への関心があることが考えられる。正答率に関しては、国名の正答率が学年を問わず高く、6年生では100%の正答率であった。児童は国際試合をテレビで観戦し、英語表記の国名に関心を寄せ、選手たちのユニフォームを見る機会が増え、様々な国名に馴染みがあることが推察される。全体的には、学年が上がると正答率が高くなったが、文章を読む形式では、6年生でも50%前後の正答率にと

どまった。

(2) 高学年児童と中学生では単語や文を書く場合にどのようなエラーの傾向がみられるか。

まず、中学1年生において5月時点と2年生4月のどちらにおいても Thursday や eleven、twelve などの語の正答率が低かった。同時に four は4文字の短い語であるにも拘わらず正答率が4月で74%強であったが、自己評価では書けると書いている生徒が多くあり、正しい綴りに関する生徒の認識にズレがあるのではないかと考えられる。

また、文章でのエラーに関しては、小・中どちらにおいても、外来語のカタカナ表記やローマ字学習による読み書きの学習から英語の綴りを類推する傾向があり、更に、日本語の語法の影響を受けていると推察されるエラーが多く見られた。特に高学年対象の書く作業では、語に欠けている文字を下線部に記入したり、文の欠けている語を挿入したりすることが多く、完全文を書く指導時間が少ないので、正書法を意識的に学ぶ機会も少なく、誤記することが多い。意図的に、頭文字を大文字にする曜日名のような単語を板書で示したり、単語ごとに1文字分のスペースを取る分ち書きなども指導者が板書したりする様子を見せて、日常的に児童に気づきを促す指導が必要だと考える。

音声のインプットに関しては、音素の発音を正しく聞かせながら英文の意味を聞きとらせることから始まり、その英語の音と綴りの関係を指導していくために、「やり取り」の活動を充実させて、文を聞かせる時に音素や Prosody を正しく聞かせることで Input の質を向上させる必要がある。

以上4つの取り組みについて考察したように、小学校段階で子どもたちの習熟が不十分であると、中学進学後の英語学習に支障をきたし、小中連携についても重要な課題が残ると考える。今後もこのエラーに関する研究の必要を感じており、調査の継続だけでなく、エラーが起こらない指導技術を提言し、現在関係している研究協力校において、指導改善を提案しながら、子どもたちの習熟の様子の観察を続け、併せて、データ収集に努めたい。

この研究を2023年7月、小学校英語教育学会 (JES) 京都大会において発表したところ、同学会の地域ブロック共同研究として研究を継続することになり、東京都・千葉県・埼玉県・茨城県の小学校現場教師も参加して、本研究と同一のテーマで活動を開始している。研究調査地域を拡大し、本研究の知見を活かして、現場に密着した研究体制を整え、データ収集と同時に、指導方法の改善の試みが始まっている。

謝辞

本研究は、私たちに多くの示唆に富んだ事例を与えて下さった小学生・中学生をはじめ、小学校・中学校の教諭の協力を得て可能になったものである。ここに感謝の意を表する。

参考文献

- 伊藤克敏(1990).『こどものことば 習得と創造』勁草書房.
- 伊藤克敏(2005).『こどものことば 習得と喪失—心理言語学への招待』勁草書房.
- 久埜百合(2022a).「子どもたちの発話に『創造的な逸脱』をみつけて」『語学教育研究所9月号エッセイ』語学教育研究所.
- 久埜百合(2022b).「小学校英語4年間に身につけさせたい英語の学習力～中学英語とつながるために～」中部学院大学 教育フォーラム2022(英語教育).
- 中村典生(2015).「小中を連携させる効果的な文字指導に関する研究」『EIKEN BULLITIN vol.27』日本英語検定協会.
- 林田宏一・佐藤玲子他(2023).「児童の感覚処理困難を評価するチェックリストを活用した英語の授業づくり—より学び易い学習環境にするための支援例と授業の提案—」. *JES Journal*, 23, 132-148.
- 広瀬友紀(2017).『ちいさい言語学者の冒険—子どもに学ぶことばの秘密』岩波書店.
- 広瀬友紀(2022).『子どもに学ぶ言葉の認知科学』ちくま新書.
- 物井尚子・中井康平・久埜百合・ベバリー・ホーン(2023).「中学1年生の英作文に見るエラーからの一考察」『千葉大学教育学部研究紀要 第71巻』39-45.
- 文部科学省(2017).『小学校学習指導要領』.
- 調査に使用した資料:新井謙司・久埜百合・大場浩正(2023)開発.『文字クイズIVa』未出版.

APPENDIX
APPENDIX 1

中学1年生「書けるかなクイズ」

問題の種類	問題数	自己申告(3段階)
数字(1~12)	12問	有り
曜日(日~土)	7問	有り

② 曜日を英語で言えますか？

What day is it today? 曜日を答えられますか？書いてあったら読めますか？
カレンダーを見たりしなくても、書けますか？


曜日	言える？	読める？	書ける？	書いてみよう
(日)	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
(月)	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
(火)	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
(水)	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
(木)	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
(金)	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	
(土)	○ △ ×	○ △ ×	○ △ ×	

APPENDIX 2

文字クイズ

問題の種類	問題数	下位項目	「読める」自己評価(5段階)
単語選択問題	7問		有り
条件選択問題	4問		有り
大文字・生活単語	2問		有り

文字クイズⅣ (5段階) : 1=全く読めない~5=かなり読めている

この中で、「食べられるもの」はどれでしょう？ 3つあるよ。見つけたら数字に○をつけよう。	1. panda 2. desk 3. ice cream 4. lemon 5. salad 6. table 7. pizza 8. watch	- 1 - 2 - 3 - 4 - 5
3 種のおやつに、どれか食べないですか。3つだけ選んで、数字に○をつけよう。 選んだ3つのお名前を書いてください。	1. banana 2. peach 3. chocolate 4. popcorn 5. cake 6. yogurt 7. potato chips 8. candy	- 1 - 2 - 3 - 4 - 5 <small>【選んだ3つのお名前は併せて書きます】</small>
それぞれの国旗はどこの国かな？英語の名前を読んで、横でつなげてみよう。	     JAPAN BRAZIL CANADA the U.S.A. CHINA	- 1 - 2 - 3 - 4 - 5 -

大文字

APPENDIX 3

APPENDIX 3

5・6年生の書く過程で見られたエラー (エラー項目 1-7)
6年生 144名(24名 4 units+、まどめテスト2つ)・5年生 203名(87名 2units + 24名 1 units)

1 正書法 大文字表記など	2 複合エラー	3 単語の綴りの誤り、動文字など	4 冠詞、複数sの脱落	5 カタカナ・ローマ字表記の影響	6 動詞の脱落 can + 名詞	7 語順、日本語思考の直訳
44例	43例	39例	25例	17例	15例	14例
He is Cute	He is dog.	He can ply dodge ball.	I want to see koala.	I want to go to Austerlalia.	He can curry and rice.	He+H5:H18 can jumprope. (He can jump rope.は可能.)
She is Great	But he can't recorder.	She can play volleyball.	I want to buy T-shirt.	I want to see koagas.	she can curry & hamburger.	She can study.
She is my favorite Person.	I went grandpents house	She can play table tennis a little.	I want to eat hot dog.	Kotarou	She can't soccer.	Heys can Communication.
She can do 30 Pirouettes.	He is baseball pria.	She can porri the recorder.	I want to buy macaron.	This is Miss Ootuki.	He can table tennis.	She can Cool editing
She is my favorite Woman	She is ski jumper.	She can play tennis well.	I want to buy snack.	This is Ms. Takesita.	He can dodgeball.	He can study.
I want to eat French Bread.	She is tennis player.	She can play volleball.	I want to buy America sweet.	He can Dasshu.	He can sky HIGH	You are best mother.
I want to buy Olive Oil.	He is tennis player.	She can play table tennis.	I want to see insect.	I went to Hokkidou.	He can cool	I like your katuragi.
I want to go to The U.S..	He is baseball player.	We enjoyed walking around the town.	You are very good teacher.	I went Hirosima.訓令式	She can strong and fight	I enjoy a bout.
I want to eat Gaiette.	we went aquarium.	I want to join the volleball clud.	I saw duck race.	I went to Yamanas.	You can casino in Las Vegas	I can a drawing. (分詞形と冠詞の複合エラー)
I want to eat Tiramisu.	she can syuuzi.	And she cao play badminton.	I saw shrine.	Roma	I can igo well.	I went to hakuba.
She can Cook.	He can Dasshu.	She can play the plana.	He is volleyball player.	This is Kousuke Hujimoto.	He can tennis well.	I want to eat German potato.
She can Play Soccer.	He can do kandama.	But she can't play the plano.	You are great mother.	This is Syouhei Otani.	She can basketball well.	This is mother
He can Play volleyball	She can cock a flench toast.	He can cooke.	I went to sea.	This is Hatimura rui.	He can pitting	I ate octopus a bowl.
But He can't play baseball.	He is volleyball plye.	Thank you.	I went to library.	This is Haruka kobayasi.	She can basketball.	I ate fruit a parfait.
He is Big.	Wats Sports do you like	Thank yua!	I went to movie theater.	This is Yuki Isikawa	He	
he can Play games	Bat se cant cook.	Thank you.	I saw movie theater.	Dear Ms Katuragi.		
he is ...	Heys is Genius.	Thank you.	My best memory is school trip to shimoda.	Dear Syuuto Yasuda.		
He can speak english	she is a basketbal playr	He is cull.	My best memory is sports day.			
I want to visit melbourne park.	he is Mazetas younger brother.	___ is coor.	My best memory is school trip.			
I want to visit oahu beach.	I want to eat Macaron.	___ is nise.	My best memory is field trip.			
I like your katuragi.	do you like cat/No I can't tuuth.	He can play tablet tennis.	We went to farm.			
She can cook.	I want to see the mouth of tuuth.	I want to visit Easter Islanb.	My best memory is music festival.			
He can speak withpeople.	She can pori volley ball.	This is Mrs. Sogade. (Sogabe)	I want to enjoy school trip.			
Shecan cook.	she is cur.	She can play tadle tennis.	I enjoyed ennichi festival.			
She can cooksrambleegg.	I like your fanny.	I want to bay macarons.	I enjoyed hot spring.			
He can't play soccer.	I like your cutu	She can cling well.				
He cant cook	She like sing well.	She cant plai table tennis.				
He is cool	I want buy french bread.	I want to vazit Rome.				
He is cool	I want enjoy culture festival.	Hli can fly high				
kobayashi	She can Curry and rice.	Se can play badminton				
we walked around the town.	But he can't recorder.	He can play tha piano.				
thank you.	And he can piano.	I aet grapes.				
This is shohet ootni	He can vileyball player.	It was fan.				
This is Hatimura rui.	she is a basketbal playr	I can play butting well.				
This is Haruka kobayasi.	she can doriveng.	He is batheng				
This is ado	she is cur.	She can jamp far.				
This is tuzimura mibuki.	My best memory is school trip to shimoda.	He can jumup far.				
Dear katuragi	He can volley ball	Dear mather.				
I went to atani.	He Can suwim	Yuzuk Hasumi				
I went to hakuba.	You can Visit Roma.					
I like volley ball.	I played relly.					
I saw a volley ball game.	My best memory is to simoda.					
He is cool	I can a drawing.					
He can jumprope.						

APPENDIX 3

5・6年生の書く過程で見られたエラー (エラー項目 8-13)

6年生 144名 (24名 4 units+まとめテスト2つ)-5年生 203名 (87名 2units + 24名 1 units)

8. 文型の理解不足	9 Google翻訳によるエラー	10 動詞の選択, 語彙の理解不足	11 文の構成についての理解不足	12 不定詞 toの脱落	13 三単現s
10例	7例	6例	6例	1例	1例 (複合エラー)
I want enjoy culture festival.	He can bring out a variety of tools.	I want to see Uluru and Taronga zoo.	He is can ...	I want go to France.	(She like sing well.)
I enjoyed swim in the sea.	She can Cool editing	I want to see yellowsofne.	he can sings well.		
I enjoyed read books.	It was we had fun.	I want to see Paris.	do you like cat/No I can't		
I enjoyed drive.	We play Daruma=San fell and relay.	I want to grandmother house. (visited)	I went to a library.		
I enjoyed play with my friends.	I could play music very well.	I played a relay.	You are is kind.		
I like play a snare drum.	I can palette.	You are onigokko	I ate an udon.		
He can cooking.	You can crab you eat.				
He can lightning.					
she can doriveng.					
He can singing.					